

箕面都市開発株式会社

平成26年度

平成27年度

決 算 ・ 予 算

〔速報版〕

平成27年6月

箕面都市開発株式会社

平成26年度決算の概要

1 平成26年度予算と決算を比較すると

- 予算編成時及び上半期決算時の見通しに比べ、売上高は増加し、営業利益、経常利益、当期純利益とも、予算を上回り、経営は順調です。

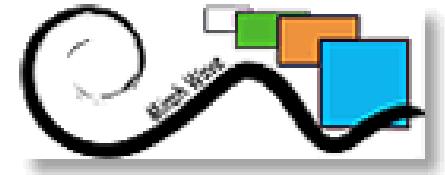
2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、調停条項の想定推移を上回りました。
- 純資産額については、平成24年度に債務超過を解消し、繰延税金資産^(※1)を除いても、大幅に増加しています。
- いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、調停条項を大幅に上回りました。

(※1): 繰延税金資産とは…将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰り延べ処理することにより生じる資産のことをいいます。

3 今後の展望

- いずれの利益ベースにおいても、調停条項や平成26年度予算に比べ大幅に上回る順調な経営となっていますが、これは新規事業の獲得や自社所有不動産の賃貸等の営業努力と販売管理費の削減を継続した効果によるものです。
- 今年度は、新規事業獲得に注力したことにより、長期にわたる安定収益事業を確保することができました。引き続き、それに伴う投資等にも対応できるキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。



大和都市開発株式会社

平成26年度

決 算

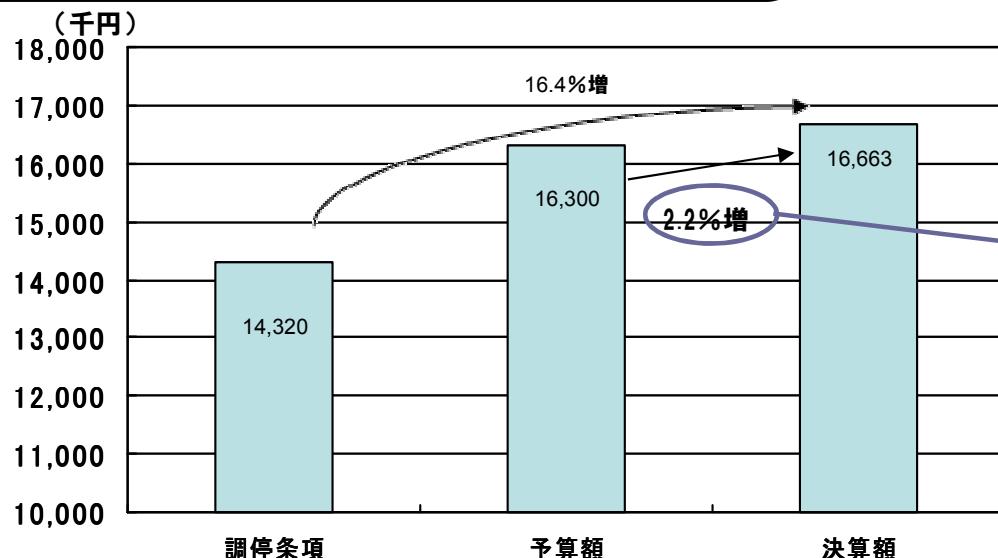
1. 平成26年度決算

(単位:千円・%)

調停条項	平成26年度実績			平成26年度決算の比較			
	予算額	決算額	予算との比較		調停条項との比較		
			増減額	増減率	増減額	増減率	
売上高	108,000	110,000	112,680	2,680	2.4	4,680	4.3
営業利益	14,320	16,300	16,663	363	2.2	2,343	16.4
経常利益	12,421	14,252	14,435	183	1.3	2,014	16.2
当期純利益(※)	6,104	7,605	8,019	414	5.4	1,915	31.4
期末資金残高	86,481	96,510	96,678	168	0.2	10,197	11.8
純資産額	9,700	19,962	20,375	413	2.1	10,675	110.0

(※)法人税等調整額を除いています。
法人税等調整額とは…税務上の益金、損金で算定される課税所得と企業会計上の収益、費用で算定される利益との差額を調整する会計処理のことです。

2. 営業利益（本業利益）の比較



決算においては、すべての項目において、調停条項を大幅に上回りました。

要因

新規不動産事業の開始、人件費や外注費等の費用削減に努めたことが大きな要因です。

3.貸借対照表

(単位:千円・%)

	平成25年度		平成26年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
資産合計	510,543	100.0	514,131	100.0	3,588
流動資産	103,328	20.2	105,768	20.6	2,440
固定資産	407,215	79.8	408,363	79.4	1,148
有形固定資産	377,746	92.8	374,209	91.6	▲3,537
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	29,173	7.1	33,858	8.3	4,685
負債合計	477,869	93.6	468,753	91.2	▲9,116
流動負債	28,086	5.9	26,258	5.6	▲1,828
固定負債	449,783	94.1	442,495	94.4	▲7,288
純資産	32,674	6.4	45,378	8.8	12,704
純資産(繰延税金資産除く)	12,356	—	20,375	—	8,019

平成26年度の業績が好調だったため、**流動資産**が増加しました。

弁済計画に基づき、平成26年度分を箕面市へ返済したため、**固定負債**が減少しました。

参考1：経営内容を判断するポイント

■会社の経営状況は期間損益の状況を見るだけではなく、資金計画を見ることで経営状況を判断できます。

★調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ①期末にどれだけの資金残高があるのか
- ②純資産額(貸借対照表の資産合計－負債合計)による判断

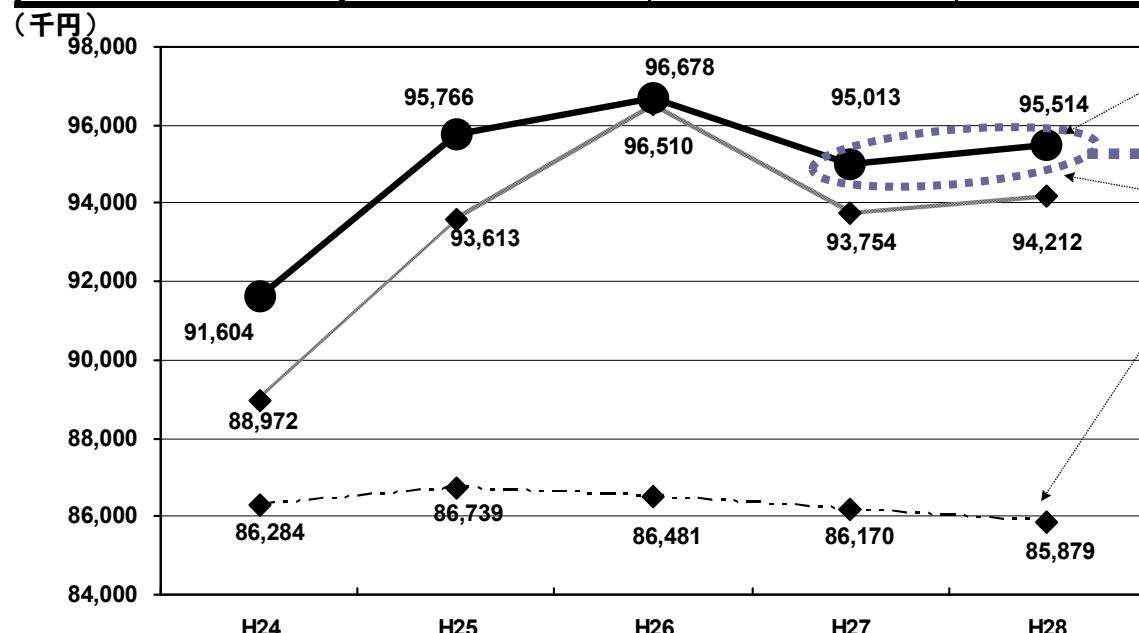
→ 資金計画で判断することが適切

参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成26年度からの予測	
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
調停条項	86,284	86,739	86,481	86,170	85,879
予算ベース	88,972	93,613	96,510	93,754	94,212
決算ベース	91,604	95,766	96,678	95,013	95,514



箕面駅前駐車場・駐輪場の建替えを見据えた先行投資^(※)により、平成27年度に一旦下降するも、以後、調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。

(※) 箕面駅前駐車場・駐輪場とみのおサンプラザ1号館ビル間の連絡橋設置に向けて、設置予定区域の区分所有権を取得しました。これにより資金が一時的に減少しますが、今後の事業化に向けた契約により期末資金残高が再び上昇する見込みです。

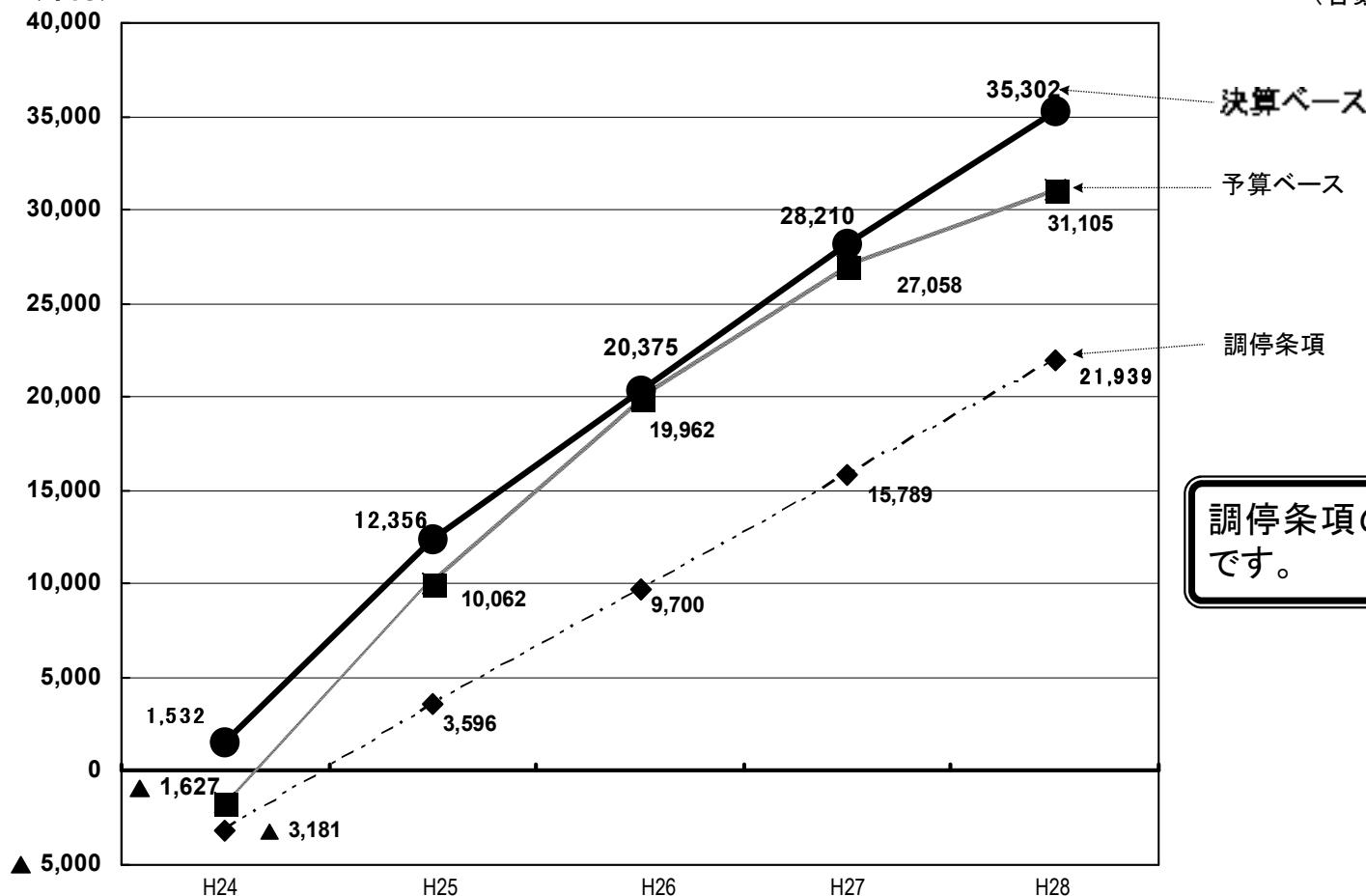
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

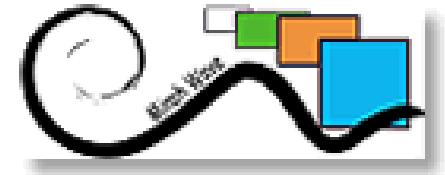
	各年度の予算・決算実績			平成26年度からの予測	
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
調停条項	▲3,181	3,596	9,700	15,789	21,939
予算ベース	▲1,627	10,062	19,962	27,058	31,105
決算ベース	1,532	12,356	20,375	28,210	35,302

(千円)

(各数値は繰延税金資産を除いています)



調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。



大和都市開発株式会社

平成27年度

予 算

1. 平成27年度予算と調停条項

(単位:千円・%)

	調停条項 (平成28年3月期)		平成26年度 予算		平成27年度 予算		平成27年度予算の比較	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	調停条項との 増減率	平成26年度 予算との増減率
売上高	108,000	—	110,000	—	120,000	—	11.1	9.1
受託料収入	65,157	—	65,770	—	73,280	—	12.5	11.4
所有床賃貸収入	6,907	—	6,150	—	7,152	—	3.5	16.3
土地賃貸収入	23,640	—	21,600	—	22,348	—	▲5.5	3.5
受取手数料収入	2,296	—	2,480	—	2,420	—	5.4	▲2.4
文化・交流C売上	10,000	—	14,000	—	14,800	—	48.0	5.7
営業利益	14,320	13.3	16,300	14.8	17,500	14.6	22.2	7.4
経常利益	12,460	11.5	14,252	13.0	15,501	12.9	24.4	8.8
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	6,089	5.6	7,605	7.0	7,835	6.5	28.7	3.0

2. 売上高・利益ベースの推移

- 平成26年度決算において、各利益ベースとも平成26年度予算を上回りました。
- 平成27年度予算において、平成26年度決算と比較すると、売上高、営業利益、経常利益ともに上回る見込みです。
新規事業（駐車場・駐輪場の受諾業務）の開始に加え、不動産賃料及び民間駐車場管理収入の増加による売上増加が大きな要因です。
- これにより、経営内容の判断指標である期末資金残高や純資産額は、順調に推移する予定です。（6・7頁参照）

■売上高

(単位:千円)

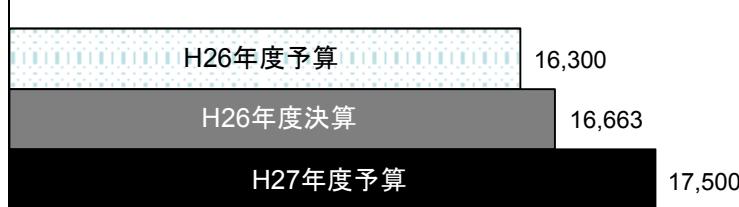


H26予算とH27予算の比較・主な要因

前年比9.1%増

- 駐車場・駐輪場事業開始と民間駐車場の受託業務及び自社不動産の賃貸の増加による

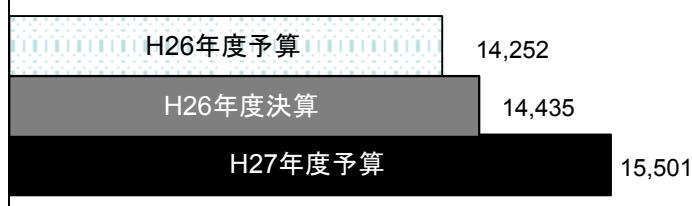
■営業利益



前年比7.4%増

- 売上高増加による

■経常利益



前年比8.8%増

- 営業利益の増益による

■当期純利益

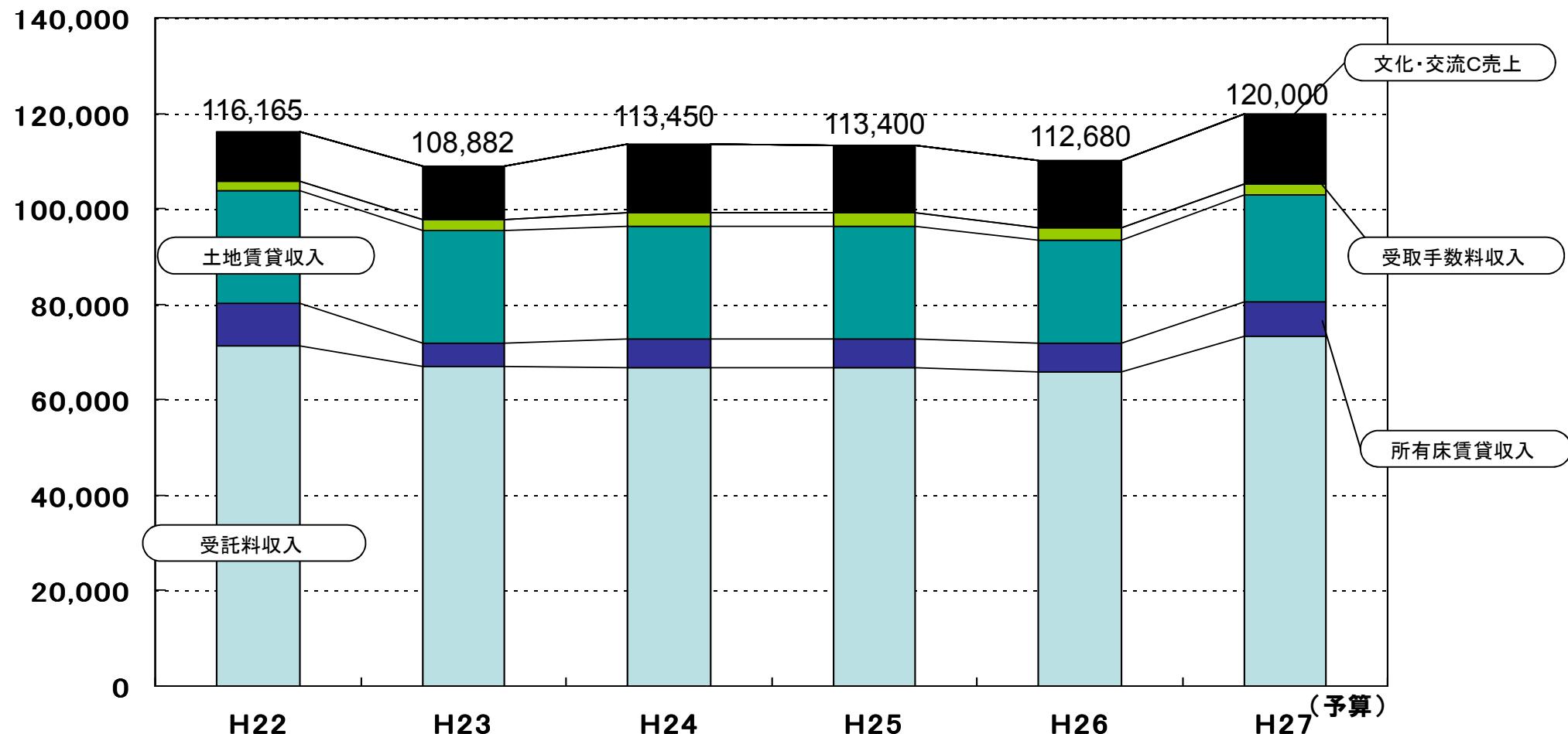


前年比3.0%増

- 経常利益の増益による

参考1：事業別売上高の推移

(千円)



参考2：売上高増減の主な要因

